

図書館だより

栃木市立栃木西中学校 6月号 水無月

図書室閉館のお知らせ

長かった学校の臨時休業が終わり、やっと学校が再開しました。長い臨時休校の間、皆さんはステイホームをどのように過ごしていましたか？

学校再開と同時に西中図書室も開館し、皆さんにたくさん本を読んでもらいたかったのですが、7月になると図書室のパソコンが変わることになり、皆さんに長く本を貸すことができなくなりましたので、1学期は図書室を閉館することになりました。

1年生の皆さんにとっては、中学校の図書室がどのようになっているのか、楽しみにしていた人も多かったのではないのでしょうか。2学期、図書室が開館したら、ぜひ、本を借りに来てください。読むことが楽しくなるような本を用意して、皆さんを待っています。また、図書室にある本や新着図書については図書館だよりや新着図書案内でお知らせしたいと思います。

《梅雨の時期、お家でこんな本を読んでもみませんか？》

『雨ふる本屋』 日向 理恵子 作/吉田 尚令 絵



ルウ子はカタツムリにさそわれて”雨ふる本屋”へ。そこには摩訶不思議な本と、ドードー鳥の店主と助手の舞々子、そして妖精たち。雨つぶ 雨だれ 雨音 ルウ子のふしぎな冒険がはじまります。

『雲の名前 空のふしぎ』 武田 康男 文・写真



空の美しさのひみつと、いま空で何が起きているかがわかる写真集。今の時期、空は雲はどうなっているか、写真と見くらべてみませんか。

『夢をかなえるゾウ』 水野 敬也 著



何をやってもうまくいかないサラリーマンの前に突然現れた関西弁を喋るゾウの姿をした神様”ガネーシャ”。成功するために教えたことは地味なものばかり・・・。愛と笑いのファンタジー小説。

第66回 青少年読書感想文全国コンクール“課題図書”



『天使のにもつ』 いとう くみ 著

中二の風汰が職場体験で選んだのは保育園。「子どもと遊んでりゃいい」といい加減な気持ちでいたのだが・・・捨て犬を拾ったり、園児のしおん君との交流で5日間の職場体験の中で今まで気づかなかったことを考え成長していく姿を面白おかしく描いている。ぜひ、職場体験に行く皆さんに読んでもらいたい本です。



『平和のバトン』 弓狩 匡純 著

広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶

広島に住む高校生が毎年「次世代と描く原爆の絵」という企画に参加し原爆を体験したお年寄りから話を聞きそれをリアルな描写で描く。昔の話として終わらせてはいけない、そんな思いを持ちながら、読んでみてください。



『11番目の取引』 アリッサ・ホリングスワース 著

アフガニスタン難民サミと祖父は心の拠り所であり、生きていくために必要だった伝統楽器ルバーブを奪われてしまった。取り戻すためには1ヵ月以内に700ドル必要だった。サミは友達に助けをもらいながら、自分が持っている物と物々交換を始める。過去を思いながら、1ヵ月以内に700ドル集めることができるのか・・・

《6月15日は県民の日》

県民一人ひとりが、郷土を見直し、理解と関心を深め、県民としての一体感と自治の意識をはぐくみ、より豊かな栃木県を築き上げるために定められた「県民の日」は、明治6（1873）年、栃木県と宇都宮県が合併し、現在の栃木県が誕生した日の6月15日に制定されました。

図書室には郷土資料コーナーや栃木市が生んだ文豪山本有三のコーナーがあります。ぜひ、図書室に来て、栃木の歴史を覗いてみてください。